

## 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.2 4 9】

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約400カ所へBCC送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。

本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1) 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HPの「お問合せ」をご紹介ください。  
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2) 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3) 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS拡散」してください。

### 【目次】

1. ベンゾジアゼピン依存症自己申告アンケート日本語版を用いた睡眠薬使用障害の現状調査
2. 大麻等の薬物対策のあり方検討会 (厚生労働省\_\_令和3年1月20日) 第1回 (検討会資料添付)
3. 小林化工事件におけるベンゾジアゼピン副作用の重大性 (抗議書添付)

### 【記事】

1. ベンゾジアゼピン依存症自己申告アンケート日本語版を用いた睡眠薬使用障害の現状調査

<https://www.carenet.com/news/general/carenet/51529>

不眠症治療においても、ベンゾジアゼピンの連用が危険であることは言うまでもない。

2. 大麻等の薬物対策のあり方検討会 (厚生労働省\_\_令和3年1月20日) 第1回 (検討会資料添付)

<https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000723426.pdf>

薬物乱用対策の推進体制が提唱されており、特に、急増している大麻対策が検討されている。しかしながら、その資料では、ベンゾジアゼピンが「精神依存及び身体依存が弱い」と誤解されて評価されている。大問題であり、大麻よりベンゾジアゼピンの方がはるかに危険である。世界中を見ても、大麻自由化の国があっても、ベンゾジアゼピン自由化の国は存在しない。

国立精神神経治療センターの松本俊彦医師が「日本での大麻の自由化」を提唱しているが、そのような馬鹿げた政策が我が国で成立するとは到底考えられない。依存性薬物の規制強化は世界の趨勢であり、自由化した国は、すでに大麻等が国内で蔓延化して「打つ手がなくなり自由化」したにすぎない。

3. 小林化工事件におけるベンゾジアゼピン副作用の重大性 (抗議書添付)

<https://president.jp/articles/-/41786?page=1>

当会は、厚生労働省 医政局長 迫井 正深 様、同 医薬・生活衛生局長 鎌田 光明 様、同 医薬・生活衛生局 医薬安全対策課長 中井 清人 様に対して、「ベンゾジアゼピン混入 (小林化工事件) に関する抗議書」を郵送する。

その趣旨は、「当会は、従来からベンゾジアゼピンの危険性を強く警告してきたにも拘わらず、放置されたまま、当事件を生じさせた行政の不作为に対して、以下のとおり、強く抗議する。」である。詳細は、本文参照。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史